

日本維新の会の馬場伸幸代表が23日放送のインターネット番組で「共産党は日本からなくなったらいい政党」と発言し、批判を浴びています。他の党の政治的立場や政策を批判する権利があるのは当然ですが、政党の存在そのものを否定した馬場氏の発言は、そのような政党間の論争と全く次元の異なる暴論です。連う考えを持つ相手を尊重し、意見を交わす民主主義の大原則を否定するものです。日本共産党に対する攻撃にとどまらず、日本の民主主義の根幹を揺るがす大問題です。馬場氏は発言を速やかに撤回すべきです。

各界からの批判相次ぐ

「馬場氏の発言は他党、ひいてはそれを支持する有権者をも否定

主張

維新・馬場氏の暴論

するものだ(26日付「朝日」)での法政大学大学院の白濁浩教授のコメント、「民主主義をどう思っているのか」(25日の文化放送「大竹まこと・ユールデンラジオ」での大竹氏の発言)、「民主主義をのものを否定する危うさを察してはならない」(立憲民主党の

新例は撤回を拒み続けています。馬場代表は26日、記者団に対し、「謝罪や撤回をする気は全くない」「政治家としての信念」などと開き直りました。それだけではなく、日本共産党は破壊活動防止法(破防法)に基づき調査対象団体とした政府答弁書を持ち出

不破三議員と石山陽公安調査庁長官(いずれも当時)が行った論戦で決着済みです。石山氏は、当時までの38年間にわたって「現実には規制の請求を致したことはありませぬ」と答弁し、「暴力革命」の「証拠」がそれまで「一つも見つからなかつたことを認めました。

弁論が事無根であることは、日本共産党の歴史が証明しています。破綻した政府の悪質なデマに頼ることでは、自身の発言を正当化できない馬場氏になんの道理もないことは明らかです。

許されぬ民主主義否定撤回を

原口一博元総務相のツイッター投稿(稿)

「危険な政党だと政府が認めている」と主張しました。

日本共産党は「暴力革命」なるものを正規の方針にしたことはいくらもありません。石山氏の答弁から30年以上経過しましたが、ない証拠はいくら探しても出てくるはずがありません。

憲法の異なる政党や政治家をマヤ中傷で攻撃すること自体、民主主義社会の土台を揺り崩します。そして、自分が気に入らない政治者として絶対許されません。

馬場氏への批判は、政党支持の違いを種々に広がっています。日本共産党は、直ちに抗議を表明し、馬場氏に発言撤回を求めました。小池晃書記局長は28日、抗議文を維新側に渡しました。しかし、維

全般的な外れな日本共産党への攻撃です。そもそも歴代政権が、日本共産党を破防法の調査対象にしていないこと自体、根拠がないことです。それは1988年2月18日の衆院予算委員会での日本共産党の

「暴力革命」などという政府答弁が事無根であることは、日本共産党の歴史が証明しています。破綻した政府の悪質なデマに頼ることでは、自身の発言を正当化できない馬場氏になんの道理もないことは明らかです。

憲法の異なる政党や政治家をマヤ中傷で攻撃すること自体、民主主義社会の土台を揺り崩します。そして、自分が気に入らない政治者として絶対許されません。

各界からの批判相次ぐ

「馬場氏の発言は他党、ひいてはそれを支持する有権者をも否定

「暴力革命」などという政府答

合わせ必ず撤回を求めよう。